令和8(2026)年度 全国学力・学習状況調査の結果について

羽曳野市立峰塚中学校

本年4月23日（木）に実施しました、文部科学省「全国学力・学習状況調査」の分析結果について、以下のように報告させていただきます。この調査結果を分析することで、本校生徒の実態や課題を明確にし、学力向上のための学習指導の改善に活かしていきたいと考えております。

※ 今回お知らせする結果は、学力や学習状況の一部分であり、子どもたちの学力や学習状況、学校の教育活動などのすべてを表すものではありません。

【教科に関する調査より】

『 国語 』

【成果】

〇一定数の生徒は、知識技能だけでなく、活用型の問題にも対応できていると考えられる。

〇漢字に関する問題は、一定程度正答できており、漢字テストの継続的な取り組みが基礎的な漢字の定着につながっている可能性がある。

【課題】

■単に漢字や文法の「知識不足」ではなく、「知識を使って考え、根拠を示し、表現する」力に課題が見られる。

■話し合い、随筆、説明的文章などを通して得た情報を比較・関連付け、自分の考えを根拠とともに表現する力の強化が必要である。

【授業改善の方向性】

得点層の基礎を確実に支えながら、中・上位層にはより深い思考を促す、層に応じた授業改善が必要である。また、言語能力と情報活用能力を一体的に育成していくことが求められる。ICT の活用は、探究心を育むための手段として位置付けたい。タブレットや思考ツールを使うこと自体を目的とするのではなく、「どのように考えるのか」という思考の技法を育てる。

そのため、まず自分の気付き・疑問・初感を言語化する力を身につけさせる必要がある。疑問を出発点としながら、得た情報を比較しながら考えを深める過程を重視する。「何が分かったか」だけでなく、「なぜそう考えたのか」「どの情報を根拠にしたのか」と問い返すことで、国語科で育てる言語能力を情報活用能力へとつなげたい。

『 数学 』

【成果】

○「数と式」の分野に関する問題について、府の平均を上回っており、毎回の授業の最初に行う小プリントの取り組みを継続することで、計算の力がついてきている。

○「反比例」の表で、xとyの数量の関係についての問題の正答率が、府の平均を上回っており、表から数量を推測し、答えを導き出す力がついている。

○「正負の数」の分野において、ある都市の最高気温と最低気温の関係についての問題の正答率が、府の平均に近づいてきている。日常生活に結び付く事象を数学的に考える力がついていると考察される。

【課題】

■すべての分野において、無回答率が府の平均を上回っており、根気強く最後まで問題に取り組み、答えを導き出す力が弱い傾向がある。

■「データの活用」分野の問題の正答率が格段に低く、度数分布表から必要な情報を読み取り、答えを導く力に課題が見られる。

■記述式で答える問題の正答率が低い。自分の考えを、自分の言葉で説明する力が弱い。

【指導の重点】

・文章やグラフから意味や数量の関係を読み取り、与えられた数量の関係を、式で表す力をつけるために、読解力を必要とする問題を重点的に取り組んでいく。

・与えられた問題に対し、あきらめず、最後まで取り組む根気強さを育てていく取り組みを継続する。

・テスト後の振り返りを毎回実施することで、自分の反省点、今後の取り組み方について、生徒が考え、自分の考えを、自分の言葉で言語化する習慣を定着させる。

『 英語 』

【成果】

〇与えられた情報に基づいて、留学生の昨日の出来事を説明する英文を書く問題において、全国の平均を上回った。日常的な授業の中で、基礎的な単語や文法事項の定着を図る取り組みの成果が現れていると考えられる。

〇アナウンスを聞き、目的に応じて行くべき場所を選択する問題の正答率が高く、全国の平均を上回った。毎時間の最初にリスニング問題に取り組んでいることが、基礎的なリスニング力につながっていると考えられる。

【課題】

■「読むこと」全体の平均正答率が、大阪府の平均と比べて低くなっている。特に、メールやメッセージを読んで条件に合うものを選択したり、文章を読んで適切なグラフや時間を読み取ったりする問題で府平均との差が開いており、英語の文章を読んで必要な情報を素早く処理する力に課題が見られる。

【指導の重点】

・まとまった英文を読む機会の確保が必要である。授業での教科書読解において、生徒が目的を持って必要な情報を探し出せるよう適切な設問を設定し、読み取る力を育むことで、情報処理能力の向上をめざす。

【生徒質問紙より】

☆見えてくる全体的な傾向

成果

★学んだことを実生活へ結びつける意識の高さ

「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか」という質問に対し、「当てはまる」（29.5%）と「どちらかといえば、当てはまる」（48.5%）の合計が 78.0%に達している。これは全国の合計（45.4%）を大きく上回っており、学習の意義を見出し、主体的に学ぼうとする姿勢が育っていると言える。

★自ら学び方を工夫する力の定着

「自分で学び方を考え、工夫することはできていますか」という質問に対して、肯定的な回答（「できている」「どちらかといえば、できている」）の合計が 80.9%であり、全国（78.2%）を上回っている。今年度重点的に取り組んでいる「振り返り」による成果の一部ではないかと思う。

★平日に長時間学習に取り組む層の存在

平日の学校以外の勉強時間が「3 時間以上」と回答した生徒が 24.1%おり、全国（8.9%）と比較して非常に高い割合となっている。

課題と改善策

★記述式問題に対する「粘り強さ」の不足

国語の書く問題について「全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」生徒は 63.4%（全国 72.4%）にとどまっています。数学の書く問題では、最後まで努力した生徒が 44.9%（全国 57.6%）とさらに低くなっています。また、数学の解答時間が「時間が余った」と回答した生徒が 69.7%（全国 27.7%）と極めて高く、早い段階で解答を諦めてしまっている様子がうかがえる。

改善策

授業内で「書くこと（記述・表現）」へのハードルを下げるスモールステップの演習を日常的に取り入れ、完全な正答でなくても、自分の考えの過程や途中の式を書けたことを評価する。「まずは書いてみる」「粘り強く考える」姿勢を強化することが大切だと考えられる。

★メディア利用時間の長さと読書習慣の不足

平日のスマートフォン等での SNS や動画視聴等の時間が「4 時間以上」の生徒が 46.5%に上り、全国（28.8%）を大きく上回っている。一方で、平日の読書時間が「全くしない」生徒は 45.2%（全国 40.7%）となっている。

改善策

中学校だけで解決できる問題ではないため、保護者懇談や学級通信などを通じて家庭と連携し、ルール作り（ノーメディアデーや利用時間の設定など）を促すことが必要であると考えられる。学校内でも、朝学習から朝読書時間を設定したり、興味を引きやすい図書を教室に配置したりするなど、活字に触れる機会を意図的に増やす工夫が求められる。

★協働的な学びと学習の振り返りの質の向上

「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり新たな考え方に気付いたりする」ことができていると回答した割合（肯定意見）は 77.6%で、全国（87.0%）を下回っている。「分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげる」ことができている割合（肯定意見）も 72.2%で、全国（79.0%）より低くなっている。

改善策

ペアワークやグループワークを実施する際、単に話し合わせるだけでなく、「なぜ話し合う必要があるのか」という必然性のある課題設定や、役割分担を明確にすることが大切である。授業の終わりに短い時間でも

「振り返り」を記入させ、自身の理解度をメタ認知させる習慣を定着させるアプローチが考えられる。今年度重点的に取り組んでいる「振り返り」の充実を引き続き進めていきたい。

特徴的と思われるもの（項目ごとの数値）

《 学校生活について 》

○「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と答えた割合が高い。
（ **峰中 82.2%**　府 76.9%　国 78.6% ）

《 学習について 》

○「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできている」と答えた割合が高い。
（ **峰中 80.9%**　府 78.9%　国 78.2% ）

○「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）の質問で「2時間以上」と答えた割合が高い。
（ **峰中40.3%**　府34.8%　国30.1% ）

○「学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどの ICT 機器を、勉強のために使っていますか」の質問で「2時間以上」と答えた割合が高い。
（ **峰中 9.9%**　府 4.5%　国 4.3% ）

《 自身について 》

○「学校での悩みについて、あなたの親や家族は、どれくらいあなたと話しますか」の質問で「ほぼ毎日」と答えた割合が高い。
（ **峰中 44%**　府 37.2%　国 36.4% ）

○「放課後や学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、地域の図書館にどれくらい行きますか」の質問で「週1回程度行く」と答えた割合が高い。
（ **峰中7%**　府2.0%　国1.7% ）

課題と思われるもの（項目ごとの数値）

■「普段、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等で SNS や動画視聴などをしますか」の質問で「4時間以上」と答えた割合が高い。
（ **峰中 46.5%**　府 35.6%　国 28.8% ）

■「あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器で文章を作成することができる」と答えた割合が低い。
（ **峰中 41.5%**　府47.8%　国52.6% ）

■「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」と答えた割合が低い。
（ **峰中 77.6%**　府 84.5%　国 87.% ）
■「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる」と答えた割合が低い。
（ **峰中 83%**　府 90.9%　国 92.4.% ）